

大谷教師塾 教員養成ナビゲータ

大谷大学
教職支援センター

第109号

2015. 10. 21

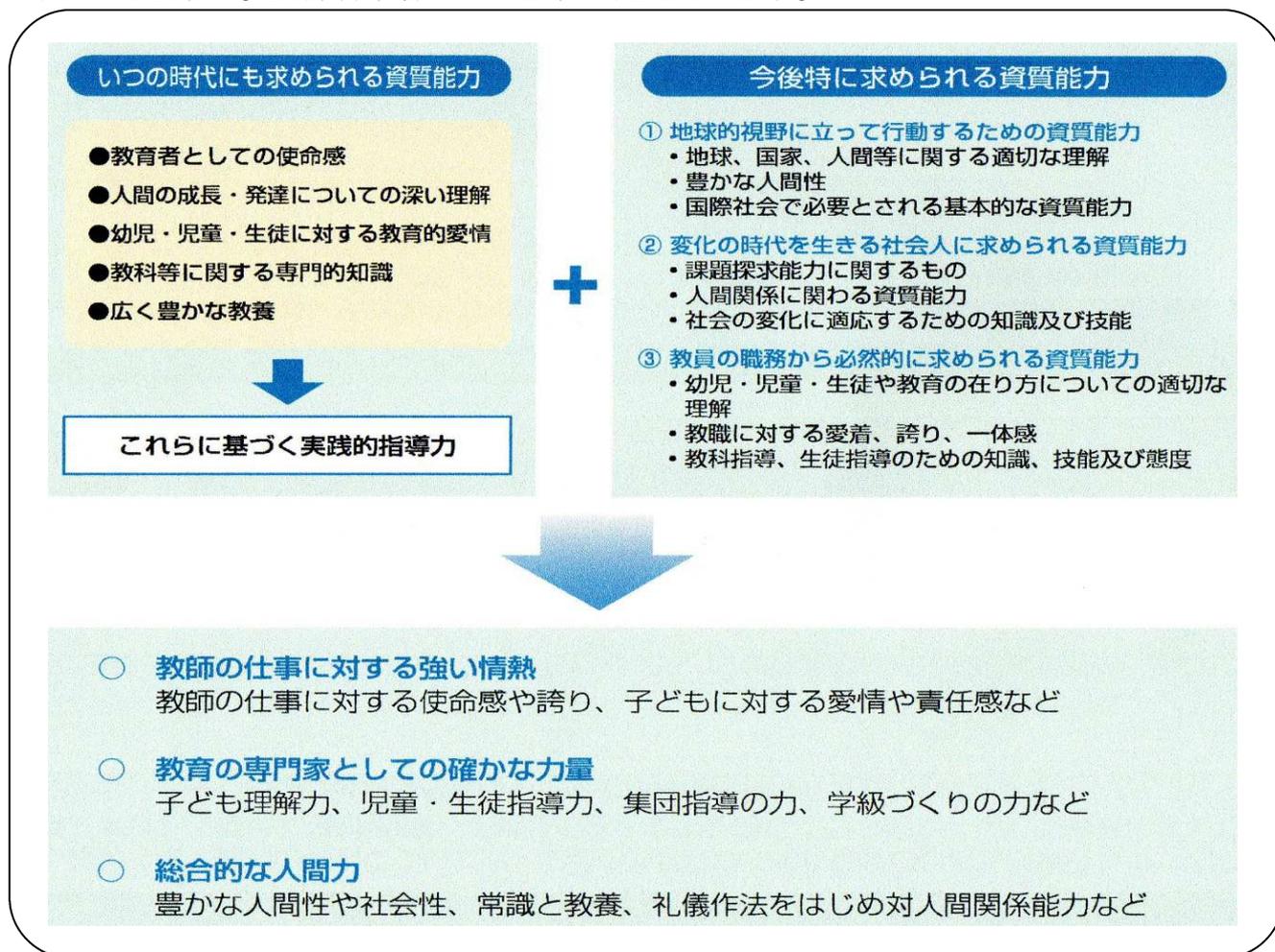
魅力ある優れた教員とは

大谷大学教職支援センター副所長
教授 市川郁子



平成28年度の採用試験が終わりました。4年生の皆さんは、採用試験に向けて全力で取り組んできたことでしょうか。筆記試験の勉強、面接の練習、模擬授業の練習、実技の練習等、おそらくこれまでの人生においてこれほど頑張ったことはないというくらい必死に取り組んだのではないのでしょうか。でも、それは当たり前です。自分の将来を展望し、就きたい職業に就くためには必死で取り組まないといけません。特に、教師という仕事は人を育てる仕事です。子どもたちのより良い成長を支援する仕事、それを目指しているのですから。

この変化の激しい社会において、これからの学校には、高い資質と能力を備え、自信をもって指導にあたる教員が求められます。子どもたちがよく学びよく遊び、心身ともに健やかに育つために、保護者や地域と共に活気のある学校づくりをするために求められる教員の資質能力とはどのようなものなのでしょうか。文部科学省はこのように捉えています。



「魅力ある教員を求めて」(文部科学省)

もし、面接で「あなたが教員に向いているのはどんなところですか?」と質問されたとしたら、あなたはどうか答えますか。自分の答えをしっかりと用意しておくと同時に、そのような力を身に付ける努力を忘れてはいけません。

《教採を終えて、後輩の皆さんに伝えたいこと》

— 学習の工夫や苦勞・成果等をふまえて —

教育・心理学科 4年生 帖佐 鈴奈（鳥取県受験）

私は採用試験に向けて、3年生の時から仲間と週一回程度勉強会をしてきた。はじめは、全国の「過去問」を片っ端からやっていった。そして、その答え合わせの際に難しかったところを話し合い、自分たちなりの覚え方をつくったり、分かる人の解説を聞いて納得するようにして進めていった。

4年生になり、試験の配点で重要視されている面接を頑張ろうと決めた。練習の中で出てきた質問を後からもう一度整理したり、自分の「売り」をアピールできる答え方を研究したりした。そのおかげもあり、一次試験では、面接の点数に助けられて通ることができた。最後まで諦めず頑張ることが大事だと強く思う。



教育・心理学科 4年生 後藤 晃輔（京都市受験）

まず、思うことは、とにかく早くから対策することが何よりも大切だ。3年生の初めから勉強会に入り対策をすることで、自信を持って本番に臨めた。

また、試験直前には仲間と共に面接や模擬授業の練習を重ねるのも良かった。仲間と共することで、自分だけでは気付けない改善点も分かるので、より充実した対策ができると思う。是非、一人で思い詰めながら頑張るのでなく、同じ目標を持つ仲間たちと一緒に頑張ってもらいたい。

採用試験は体力的にも精神的にも厳しいが、先生方や支援センターの皆さんに頼りながら、周りの友人と高め合いながら頑張れば大丈夫だと思う。自分たちの努力に自信を持って臨んでほしい。健闘を祈っている。

教育・心理学科 4年生 古田 大樹（滋賀県受験）

私が後輩の皆さんに伝えたいことは、早くから教採に向けての準備をしたほうが良いということだ。合格するためには、できる限り早くから取り掛かることをすすめる。

私は、3年生の始めから友達と勉強会を週一回行い、1年半続けてきた。最初は、知識をつけるために、一般教養や小学校全科の問題をみんなで解いた。その後、模擬授業や面接の練習など実践的な練習も行った。その中で互いにほめあったり、指摘しあうことで意欲も高まり力がついていったと感じた。

また、空き時間や休みの日は、ほとんど教職支援センターに行った。その際アドバイザーの先生に小論文の添削をしてもらったり、相談にのってもらい頼りにしていた。

毎日が勉強で苦勞はしたが、最後まで頑張ったからこそ合格できたと思う。

皆さんも頑張ってください。

真宗学科 4年生 加藤 理沙 (大阪府受験)

受験勉強をするうえで大切なことは、分からないこと・疑問に思うことがあれば支援センターの先生方に恥ずかしがらずに聞くことです。

一年生の頃、私は教採の学習方法が全く分からなかった。「わかりません。」と言うと馬鹿にされるのではないかと恥ずかしく感じ、ずっと言えずに過ごしてしまいました。けれども、二年生の冬になったころ「このままでは、まずい」と感じた。そこで、思いきってアドバイザーの先生や先輩に相談した。先生方からは、おすすめの問題集を教えてもらったり、先輩からは教採ノートをつくることや日々の勉強法を教えてもらったりした。面接練習は、何となく恥ずかしくて逃げていましたが、アドバイザーの先生に「最初から、できる人はおらん。胸張って頑張れ」と励まされた。こんなことがあって、迷わず学習や練習ができたように思う。積極的に相談することが、次につながると考える。

教育・心理学科 4年生 安田 雄斗 (豊能地区受験)

私が教員採用試験を終えて、皆さんに伝えたいことは、本当に子どもたちのことが好きなのかということだ。教師という職業は、子どもたちの将来にかかわる大切な仕事だ。教員採用試験では「先生としてやっていけるのか」、「子どもたちとうまくかかわっていけるのか」を見られていると実際に受けてみて強く感じた。

筆記試験は、勉強を重ねるしかない。しかし、面接試験では、いかに子どものことが大好きなのか、何よりどれだけ先生になりたいのかをアピールする場だ。そのためには、できるだけボランティアに参加し、できるだけ多くの子どものかわり、子どもの思いを感じる事が重要だ。

私は、採用試験のときに、ボランティア先の子どものことを想像しながら面接を受けた。子どもたちの顔を思い出せば思い出すほど緊張がほぐれてきた。

試験は、もう始まっている！頑張ろう！

教育・心理学科 4年生 久徳 美帆 (京都府受験)

教採を終えて、みなさんに一番伝えたいことは「準備を万全にして挑んでほしい」ということだ。

私は3年生の春から「過去問」を解いてきたが、試験前になっても試験に不安を感じる事が多くあった。試験が近づいて慌てるのではなく自信を持って挑むためにも今からでも準備を始めてほしい。一人ではやりづらいという人は、友達と共に学習し合うことでお互い深めあうことができていると思う。

また、受ける自治体の教育の特色をきちんと理解し、特色にあわせて自分がどんな教育をしていきたいのか考えることも大切だ。教育の特色は、面接や論文でも出てくる。特色は、リーフレットにも書いてありボランティアなどで実際の教育現場を見ることも大切だと思う。

悔いの残らないように、粘り強く頑張ろう！



教職をめざす3年生の皆さんへ

今年の教員採用選考試験も終わり、合否の発表が次々と実施されています。採用試験は、一次試験・二次試験と約一か月にわたり行われます。（堺市や石川県は、一次試験のみ）試験内容も豊富で多岐にわたり、受験生の教師としての適性を試されます。朝早くから夕刻まで緊張が続き、終われば疲れ切った自分に驚くほどです。

ある受験生は、「フーッ」とため息をつきながら「おわったー」と思わず叫んだそうです。というのは、「試験も苦しかったけれど、試験に至る今日までこんなに勉強したことがなかった。」そうです。率直な思いが飛び出したのも、解るような気がします。

さて、3年生の皆さん。

この秋からは、あなた方の出番です。大学入学後1・2年生から「教師」を意識して学習を積んできた人もいることでしょう。3年生から強く意識してきた人もいたり、気持ちはあるがこれといった行動がない人もいたり、さまざまでしょう。しかし、どの受験生にとっても来年7月の試験日は同じであり、決まっています。自分の力をしっかり分析して10月からの残された9か月間を無駄なく・悔いなく行動していきましょう。

今、あなたに強い「本気」を求めます。あなたの夢を本当に実現したいなら、思いや願いだけではなく、着実な行動が必要なのです。「いつも、なんとなんとなってきた」と思っている人。教採は「なんともなりません」。「子ども相手は、得意」「人と話すのは慣れてる」と高をくくっている人。教採は、「甘くは、ありません」。**「本気」は、目標に向かって行動することが不可欠です。今、動き出すときです。**

アドバイザーの後ろの壁に、学習計画の例や学習のポイントを示しています。参考にして、自分の計画を作りましょう。



今後のアドバイザー室、支援予定

- | | | | |
|--------|--|-----------|----------|
| 9月～12月 | ① 論作文充実指導 | ② 教師力充実指導 | ③ 教採支援相談 |
| 11月 | 各自治体教育委員会 来年度の教採説明会（予定）
大谷大学には、近畿のいくつかの教育委員会が来校予定 | | |
| 2・3月 | 春期面接・論作文セミナー実践編（2日間） | | |
| 3月 | 春期志願書記入説明会実践編（地域別） | | |